



NO. 36号
 <<編集発行>>
 新潟シティガイド
 <<発行人>>
 二瓶芳枝

新潟県中途視覚障害者

連絡会 会長



大島光芳

中途視覚障害者の

まち歩き

五月二六日に当会のまち歩きを行いました。十時二〇分にラマダホテル前に集合、参加は会員が三〇人、同行援護者十六人、シティガイドさん七人、まちづくり学校会員二人の総勢五五人。歩いた会員から声の機関誌「ソーラー」に投稿がありました。紹介します。

「五月とはいえ三〇度を超える暑さのなか、途中水分休憩を取りながら体調管理に気を付けながら皆さん楽しく班に分かれてまち歩きをしました。弁天商店街にある七福神のブロンズ像に触りました。触ると台の上に乗った少し小さい像の杖や頭などがよくわ

かりました。七福神が乗った船のレリーフもわかりました。これが置かれた理由はここが川の流域だった頃にツツガム

シ病の発病にかかわっていると知りました。弁天公園は初代新潟駅の駅前広場で、新潟で最初の公衆電話が置かれたとのことで、石碑に触りました。万代橋の歴史にも触れました。万代クロッシングは涼しくて憩いの場でした。そこで十一時四〇分になったので昼食会場のシルバーホテルへ向かいました。とてもとても暑い日でしたが、楽しく学んで美味しく食べて良い集まりだったと思います」。

私は高崎さんの案内で歩きガイドさん一人、これだと一人一人に気を配った説明になるから有難いです。時には個人への話しかけもしてくださいました。これだと自分も大切にされていると感じ、嬉しかったです。

私も新潟県中途視覚障害者連絡会は略称を中視連とい

- ・聞いたことは忘れる
- ・見たことは思い出す
- ・体験したことは理解する
- ・発見したことは身につく



います。人生の途中で見えなくなったり、見えづらくなっても生き生きと活動していきたいと思っている団体で、会員は百名です。それであるべく楽しめることと参加しやすいことを目指して多彩な行事を行っています。

まち歩きを知ったのは二〇一二年にまちづくり学校の会員になったのがきっかけで、十三年に丸藤文子さんが新潟シティガイドを教えてくださいました。十四年に視覚障害者五人で申し込むと羽賀さんが案内してくださいました。とてもよかったですので十五年の中視連の行事に加えていただきました。

えんてこ新コース

「花街を支えた

女たち、男たち」



伊藤恭子

当時の会長の藤井さんが継続して担当し、現在はますます磨きがかかってきました。これも歴代のシティガイドの皆さんのお力添えがあつての賜物です。末筆ながらみなさんのご健康と貴会のご繁忙を祈念いたします。

「えんてこ」の新コースとして掲載したところ、予測を上回る八四人の多数の参加希望があり、抽選で三五名の参加でした。

NEXT21を出発し古町花街を巡り、吹屋小路を通り秣川岸へクロスパルでトイレ休憩、ドイツ領事館跡の記念碑を見て、下大川前通りを歩き大圓寺公園と大圓寺・こんびら通りの金刀比羅神社までの二時間を歩き、その後古町・田舎家で昼食をいただくコースでした。

二コースに分けても良いような行程を一つにまとめた盛りだくさんのコース設定です。



古町花街を中心とした前半はスムーズで良かったのですが、後半は時間との戦いでどこまで説明しきれたか不安です。今年の春に完成したドイツ領事館跡の碑を、ご存知なかった人も多く碑の後ろにまわり見学している方も多数見受けられました。

昼食時に参加理由を聞いたところ「新しいコースでもあり、特にネーミングに引かれて」という方が多かったようです。食事後、田舎家の前で全員笑顔の写真を撮り合い散会いたしました。

今回の「えんてこ」で感じたことは、ネーミングとコースに新しいものを加わることでお客様に興味をもってもらえる事でした。

下見の時は草が生い茂っていた大圓寺公園(時報塔跡)もきれいに草刈りがなされていました。金刀比羅神社の奉納和船模型や大圓寺の本堂下の入定された場所も拝見させていただきました。関係各所に感謝いたします。

障がい者による
まち歩きガイド同行記



二瓶芳枝

国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭の一環事業である「障がい者によるまちあるき」第一回目が九月二二日(日)に行われました。このまち歩きは五回シリーズで開催され、その前に実地研修と入念な勉強会が数回行われて、新潟シティガイドも他スタッフと共に参加しました。

広報委員会は同行取材をさせて頂きましたが、まず感じたことは、テレビ局や新聞社が数社取材に来ており、二時間の密着取材をされていたことで、この企画の関心の高さが伝わってきました。

第一回目の障がい者ガイドは視覚、聴覚、肢体の三人。歩くコースは「予約のいらないまち歩き」の逆コース。

一行はブルーの法被を着用した障がい者ガイド、そこに聴覚通訳ガイド、視覚同行援護者と肢体障害者サポーターが加わり、主催者スタッフや報道関係者、その他の同行者を含めるとかなりの人数になり

りました。

そんな大人数でまち歩きが開始され、「出発します」や「集まってください」の案内板を掲げるスタッフの指示の下、NEXT21からにぎやかに歩き始めました。メインガイドは障害者ガイドさん達であり、シティガイドは補助的な説明に終始しました。

旧齋藤家別邸ではイベントのためにいらした二人の芸妓さんと写真を撮ったりお話を交わしたり、柔らかくゆつたりとした雰囲気味わいました。地獄極楽小路の刑務所跡地の塀を触り感触を確かめる手の動き、聴覚通訳をじっと見つめる視線の動き、視覚同行援護者としてしっかりと腕を組み説明をウンウンと楽しそうに聴く顔、それらの光景が頭をよぎります。



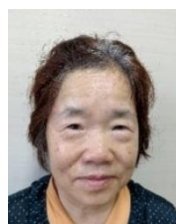
まち歩きは事故もなくほぼ時間通りに終了し、最後のあいさつではこのようなまち歩きが現実になった事への嬉しさをお話ししていただき、ただ

ただ感動しました。

このまち歩きの最終回は十一月三日で、五回の総参加者は七十二名でした。

私の散歩道

「西海岸公園・歴史と文学の散歩道」



山下範子

地獄極楽小路を抜け旧二葉中学の急な坂を登り切ると目の前に日本海が開ける。十一月三日今日は快晴、遠く河口には佐渡への定期船が走っている。

海に延びる突堤には暖かい日差しを浴び、のんびり釣りを楽しんでいる人々、地平線には佐渡ヶ島が浮かんでいる。今日のはつきり良くみえる。松林の小径を進み小高い丘に登ると川村修就の像に出会う。新潟初代奉行として在任中砂防の為に植えた松、三万本。松苗の植えつけが終わった夜詠んだ句である。

「うつし植えし二葉の松に秋の月、梢のかげはだれが仰がん」天保十五年八月十五日。更に歩いて進むと、會津八一の句に出会う。

「みゆきつむ、まつのはやしをつたいきて、まどにさやけきやまがらのこゑ」
道端には秋をつける「つわぶき」の黄色の花が咲きトベラの赤い実がたわわにつけている。



ウォーキングを楽しむ人、走る切るランナーとすれ違う。ふと空を見上げると依然暗かった松林が明るくなった様に思う。松が伐採されているのである。

道を通り抜け護国神社の大鳥居の前に出る。今日はいいい日である。参道に赤い毛氈が敷かれ結婚式の写真撮影が行われている。かわいい子供たちが着物姿で七五三を祝っていた。

以前ここは松林で戦時中伐採され、神社を作ったと言う。新潟では「しぐれ」「雪おろし」という言葉がある。十一月の終わり頃より、鉛色の空から、「みぞれ」が降る日々が続く。

ゴロゴロと雷が鳴る。雪が降る始まりである。

季節風がシベリアから吹いてくる。そして海が荒れ狂う。「海は荒海向(こう)は佐渡よ」北原白秋

「私のふるさとの家は空と海と砂と松林であった。そして吹く風であり風の音であった」坂口安吾

空、海、砂、松林、風、季節ごとに風景を変え、時代を越え、人々に感動を与え、多くの文学を生んだ。



私は海に向かって何度足を運んだだろうか。佐渡の山並みに沈む夕日、荒い波、青い松、広い海原、そして春のニセアカシアの花の香り。

新潟人は、海によって育まれた。海に生かされた。又、私もその一人である。

秋の研修旅行

「景勝・兼続生誕の地・南魚沼市を訪ねる」



山宮不二夫

九月十日、八時三〇分出発。総勢二一名、一路南魚沼「牧之通り」へ。「北越雪譜」の著者で知られる鈴木牧之誕生の地でもある旧三国街道の宿場町「塩沢宿」。誰か木曾路の妻籠宿を想像した人いませんか（私だけ？）案内人は「天地人ガイドの会」のお二人で、とても分かり易く楽しく見学できました。白手袋に「愛」の字が書かれた指し棒がユニークで参考になりました。

牧之生家を始め沢山のお店があり楽しく歩くことができ、



最後は「永林寺」です。閉館一五分前に着き三〇分は見学できましたが、石川雲蝶の作品が百点以上あるそうで、きりが無い・時間が無い・頭に入らない・再度ゆっくり



お昼はご当地「南魚沼産コシヒカリ」を堪能しました。午後からは六日町の「直江兼続公伝世館」を見学し、坂戸城跡を目指します。この日はとても暑く道にも迷いもう汗だくです。春はわらび野か「家臣屋敷跡」では、ふと喜平次と与六を思ったりして。次は町の中心部にある「今成漬物店」で銘酒「八海山」の酒粕芳る工場蔵を見学しました。名物の「山家漬」が今年の販売が終わって残念でした。又、ご先祖と会津八一の交友録などご当主の奥さんより楽しく聞かせてもらいました。

にじいろカフェ

ガイドはいつもアップデート



稲村孝夫

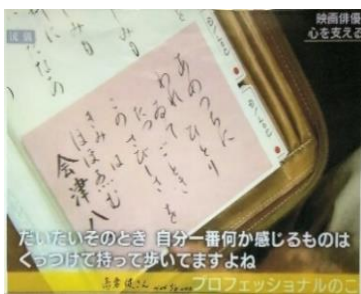
新潟シティガイド発足時と今では、商店街等も著しく変化。当時、在った店の看板がなくなり、それを指したガイドが出来なくなったり、逆に新たな案内板が設置されツールを持ち歩く必要がなくなりました。十年以上ガイドをしていると、同じ場所でも同じ語りをしていく自分に嫌気がさす事もある。お客様は一会なのだが、

自らは常日頃「アップデート」に心がける事も大切だと痛感している。その源は旅・新聞等のメディア・読書・趣味など種々雑多な物に関心をもち続ける事だろう。発足当時は知り得なかつた関連事象の一部です。まち歩きで訪れた三囲神社は三井家の守護社（三越のライオン像）

會津八一の歌をポーチに入れて持ち歩いていた俳優高倉健 || NHKの追悼番組（大阪屋他）

S・ジョブズが愛した禅僧は加茂の出身。サンフランシスコ禅センターへ行って見ました（宗源寺）

吉永小百合さんの著書で読んだ「私が最初で最後の選挙応援演説をした人は野坂昭如さんです」の言葉（旧副知事公舎）



高倉健のポーチ



三囲神社のライオン像

広報からのお願い

1 広報紙「新潟シティガイド」の原稿依頼

広報紙の紙面は、会員の皆さんの投稿原稿で成り立っています。原稿依頼をお願いすることがあると思いますが、ご協力をよろしくお願いいたします。

2 「新潟まち歩きブログ」への投稿依頼

「新潟シティガイド」をより多くの方にとって頂くため、投稿をよろしくお願いいたします。

なお、原稿を頂ければ代わって投稿も致します。



34 回 国民文化祭
にいがた 2019

日本料理の饗宴について



小寺嘉信

国民文化祭の企画の一つとして、明治二五年、六代伊藤文吉・真砂の婚礼料理再現のための御祝式献立解説の要請が北方文化博物館を通じて、アーツカウンシル様から解説の依頼を受けたのは本年二月末でした。



またにも古文書が読めない私ではあるが、各方面諸士の支援をいただきながら、「雪ひら会」様との打ち合わせ日になんとか間に合わせる事ができたのは六月中旬である。

献立の巻紙から当時この地方第一級の古式による献立であったことが知ることができ。毛筆で達筆に記された、長さ五メートルの和紙の巻紙の裏側には、数ヶ所糊で貼った跡があり、「料ノ間」の壁に貼ったものだという。婚禮の宴は三日三晩、二五〇人ともいわれるが、私見では宴は六日間、三百人以上と思われる。

愛弟子二人を率いて婚礼料理を取仕切ったのは、当時、新潟町第一級の料亭「鳥清」の主人、鳥谷清太郎である。

更に、巻紙には「鮮魚商」鍋谷吉松、「亀田町魚屋」長助、「蒲鋒商」片栄、の名も見える。献立を読み進めるうち、「鱧 照り炙」の文字に「えええ……、新潟で鱧とは……、目を疑う驚愕の文字の出現に、早速、新潟水産試験所に明治期の、新潟近海の漁業漁獲についての実態を問い合わせてみることにしたり、学芸員・安宅氏から鱧に関する貴重な御意見を承るなど、思い掛無

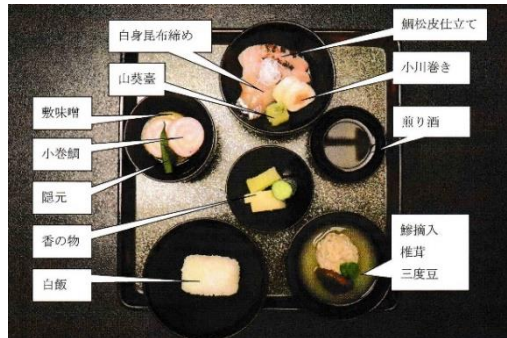
い副産物に小さな宝物を拾ったような仕合せを感じることができたことも解説を通してのご縁かと思えます。

婚礼献立の再現は十月十六日との事。此の度わざわざお声をかけていただいたのも又と無い機会と思い、よみがえる豪農伊藤家の婚礼料理の饗

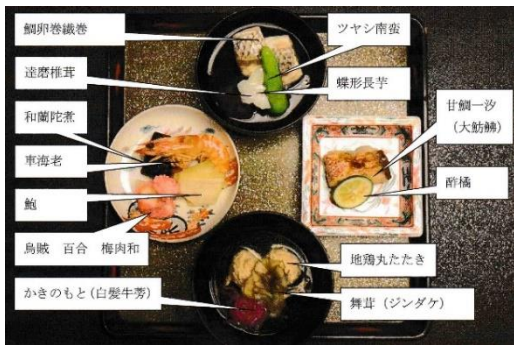
宴に、是非、出席させていた
だこうかと思っています。

婚礼献立

本膳



二の膳



会員紹介

顔 写 真	氏 名	住 ま い	趣 味	関心のあること	新潟シティガイドの抱負
	佐藤レイ子	東区 中野山	・山城跡探訪 ・世界遺産巡り ・登山	新潟市の歴史	今勉強中なので、ガイドできるまで頑張ります。
	秋山忠男	江南区 曾野木	・マラソン ・山登り	家庭菜園で美味しい野菜を作る	十数回まち歩きに参加。お客様の気持ちは理解しており、お客様の立場でガイドしたい。
	島垣二佳子	中央区 沼垂東	・カラオケ	嫁ぎ先の沼垂・島垣について、そのルーツに興味がある	先輩方の背中が大きい。とにかく、自分が興味を持ちそれを伝え、自分が楽しみたい。

編集後記

今年には新潟開港150周年や、国民文化祭などで新潟シティガイドをご利用されるお客様が多くいました。

その中でも、従来のコースを巡るのではなく、お客様からの提案型や時間設定の変更など多くのご要望があり、エリア長や担当ガイドはおお客様と打ち合わせの機会を設けました。コースの変更や時間の調整をし、実際に歩いて確かめるなどの準備活動の時間が多かったとのこと

最近の旅行では、現地での体験型や一つのことを深く掘り下げていくなど多様なニーズがあります。今回のご要望からも、新潟シティガイドがどのように活動を進めて行くか、これからの仕組み作りの参考となりました。これらの経験をいかして、お客様がより楽しんでいただけるまち歩きを、提案していきたいと思えます。

広報委員 柴野雅子

